

資料1

あきしま学びぷらん（第2次昭島市生涯学習推進計画）
後期の取組みに係る調査シート

まとめ

第29期昭島市社会教育委員会議

【調査の目的】

昭島市社会教育委員会が、「あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)」の後期に向けた取組みについて、進捗状況を評価するための資料とする。

【調査の方法】

- 調査シート1 市民のニーズに関すること、参加者数推移、市民・地域への波及効果等
 調査シート2 平成28年度に実施した事業の成果に対する自己評価

【調査対象】9部署26事業

担当課	事業名
① 市民会館・公民館	1 市民大学
	2 障害のある青年の交流講座
	3 社会文化セミナー
	4 歴史文化セミナー
	5 芸術文化セミナー
	6 地域公民館事業/地域課題講座
	7 地域公民館事業/時局講演会
② 社会教育	8 生涯学習サポーター養成講座
	9 子ども会世話人研修会
	10 社会教育・地域活動に携わるの方々のための研修会
	11 団体活動ステップアップ研修
	12 中高年のためのパソコン講習会
③ 市民図書館	13 おはなしボランティア講座
	14 はじめての読み聞かせ講座
④ スポーツ振興課	15 親子ふれあいスポーツデー
⑤ 生活コミュニティ課	16 消費生活講座
⑥ 子ども育成課	17 昭島リーダーズクラブ
	18 子どもと親の家庭教育講座
	19 子育て仲間づくり「くじらっこ」
⑦ 環境課	20 あきしま水辺の楽校
	21 森林教室
	22 夏休み親子多摩川源流体験
	23 環境学習講座
⑧ 産業活性課	24 親子米作り農業体験教室
⑨ 介護福祉課	25 傾聴ボランティア講座
	26 認知症サポーター養成講座

子ども育成課、産業活性課、介護福祉課は調査シート1のみ

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名	担当部署				
	市民大学（第8期一年次）	部	生涯学習			
		課	市民会館・公民館			
		係	事業			
	事業内容	生涯学習の一環として2年コースで開設されている。 1年目は、2年目の学習につなげるため一般教養と地域や社会の様々な基礎知識を習得した。				
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	1. 市民の自発的な学習を通して、自己実現の機会を提供する。 2. 市民相互における連帯意識の醸成を図る。 3. 学習の企画・運営において市民参画を図る。 4. 学習成果の公共的活用を図る。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	アンケート等			講義だけでなく、参加者同士の交流が図れる内容を希望していることから、実技を盛り込んだ。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	講義前半にコミュニケーション講座を実施するなど、参加者の交流が図れるようにした。			広報、公式ホームページ、チラシ 1年次は定員近い申し込みがあったが、2年次に進級する人が大幅に減ってしまった。		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		46	—	48	—	
定員		50	—	50	—	
事業の評価	実施結果	当初参加者は48名だったが、2年次進級者が33名と大幅に減少してしまった。各回講義のアンケートではおおむね満足した意見が多かった。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	参加者の減少には、60代以降の参加者が8割を占めたことがある。自身の体調や介護などで辞めざるを得ない人が多くいた。今後市民大学を続けるにあたり講義の回数等、考えなければならない課題であるが、大幅な変更は10期からとし、9期は基本を変えずに実施することとする。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	市民大学は2年をもって修了するため、1年次修了した時点では大きな変化は無い。 第7期昭島市民大学の卒業者は、グループを立ち上げたり市民大学の学習会で講師を務めたりしている。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	障害のある青年の交流講座		部	生涯学習		
			課	市民会館・公民館		
係			事業			
事業内容	障害のある青年たちが、健常な青年たちと共に活動する中で交流を深める。年間を通して料理、スポーツ、レクリエーションなどの活動、「クリスマスのつどい」などの行事に取り組んでいる。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	障害のある青年たちが、健常な青年たちと共に活動する中で交流を深め、仲間づくりを進めながら、障害を持ちながらも社会の中で生きていく力を身につけることを目的としている。公民館では、障害者の社会参加に向けた事業の充実や活動に対する理解を市民に深めてもらえるような機会の提供とさらなる支援に勤めている。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	青年学級生への声かけ ボランティア、保護者の方への事業などの相談 作業所とのイベントが重ならないように職員と連絡を取り合っている。			参加者からの人気が高い調理実習に関しては、準備に手間がかかるため講師や保護者の方とレシピの相談をし、段取りを行っている。 青年学級生の反響が良くなかった事業に対して見直しを行っている。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	前年秋に実施していた外出行事（宿泊合宿、バスハイクなど）は春に期間を変更した。担当者の業務との兼ね合いのため。			広報、公式ホームページ、チラシ ボランティアの数が少なく、運営に苦労している。		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		おおむね20～30名				
定員		定員は特になし（会場の定員まで）				
事業の評価	実施結果	参加者の大きな増減は無く、年間行事も事故なく楽しめた。年間を通しては開講のつどいやクリスマスのつどいなど、外出する事業やゲストを呼んで大人数で楽しむ事業に人気があり参加者も多い。大きなイベントの無い1月から3月までは、参加者も少なく難しい時期である。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	参加者が毎回同じ顔ぶれで、ボランティアの人数も少ないため交流講座になっていない。本来の目的である障害者と健常者との交流を実現するためには健常者のボランティアを増やすことが先決である。市内高校にボランティアを呼びかけたり、社会福祉協議会のボランティア募集を依頼したりしている。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	特にないが、くじら祭りや青少年フェスティバルのよさこい発表で地域の人たちに活動を広めている。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	歴史文化セミナー		部	生涯学習部		
			課	市民会館公民館		
			係	事業係		
事業内容	現代生活における歴史的、文化的諸課題を取り上げる。 29年度は真田信繁と大坂の陣を資料や地図等を使い、戦後時代の歴史的背景を学んだ。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	歴史を学ぶことで、国際問題から地域の様々の問題の解決の手助けとなる。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	講義終了後に参加者からアンケートを取る。					
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	他市で開催され人気の高い講座に着目した。			情報提供は広報、公式ホームページ、ツイッター、公民館日より、チラシで行った。		
参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
	参加者数	40	49	30		
	定員	50	50	50		
事業の評価	実施結果	NHK大河ドラマの話題性を見込み新規参加者を取り込みたいと考えていた、しかしながら公民館事業に初めて参加する方は5人であった(5人/30人≒17%)。 講師は、古文書や地図、挿絵等をふんだんに使用し、マイク無しではあるが抑揚のある語り口とユーモアで参加者は講師の話に引き込まれていた。そしてフィールドワークを通して得た情報を分かりやすく丁寧に説明し現場が浮かんでくるようでもあった。 大河ドラマが並行して放映されていたこともあり、講師はドラマにも言及し、テレビを見ていた参加者は戦国時代の理解を深めたと思われる。 アンケート結果も「よかった」のみで参加者の満足度は高かった。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	講師の都合で3回講座となったが、4回以上あったほうが学びを深めていけると思う。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例:自主事業の開催、サロン、サークルなど)					
	②支援者の養成につながったこと(例:参加者が講師や講座の補助者になった など)					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	芸術文化セミナー（旧シニア講座） ※29年度新規事業に至った経緯をお願いします。		部	生涯学習		
事業内容	旧シニア講座では、高齢者が抱える様々な課題を取り上げ、楽しく学び、交流し合いながら、心豊かな老後を自らが切り開く機会として、60歳以上の方を対象として毎年講座を開設してきました。 28年度は、シニアの方たちに老化予防の効果も期待されている折り紙を楽しんでもらうことで、毎日の趣味をつくり、同じ趣味を持つ仲間や家族・友人と折り紙を通じて交流を深めてもらうことを目的に実施した。		課	市民会館・公民館		
			係	事業係		
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	折り紙を通じて、講座の参加者間で交流を深め、活動を継続してもらえるよう自主グループ化をめざす。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	公民館登録団体の折り紙サークルへの聞き取り等			自主グループ化の際に、グループの代表者と既存の折り紙サークルの代表者との間で情報交換の場を設けた。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	初心者向けに、基礎的な部分から分かりやすく説明していただくように講師と講座内容について調整した。また、毎回趣向を変えて異なった折り紙作品を作るプログラムにした。			広報、公式ホームページ、チラシ		
参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
参加者数		10	24	35		
定員		25	24	35		
事業の評価	実施結果	シニア講座のテーマに選んだ折り紙は、シニアの方々の関心が高く、初日で講座の定員に達した。講師の指導はとても丁寧で分かりやすく、全員が出来るまでテーブルを回って一人一人教えていた。参加者も熱心に説明を聞いていて、同じテーブルどうしの参加者で教え合いながら学ぶ光景が見られた。作品も毎回季節に合ったテーマを選んだため、参加者からは大変好評だった。学習の過程で参加者間の交流が活発に行われ、終了後も活動を継続したいという声が多く出たため、自主グループ化するに至った。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	自主グループ化する際の話し合いの場において、代表者がなかなか決まらなかった。話し合いがよりスムーズにいくようなコーディネーターが必要だと感じた。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど）					
	②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	地域公民館事業/地域課題講座 いじょうび?防犯・防災の基礎知識	「だ	部	生涯学習		
			課	市民会館・公民館		
			係	事業		
事業内容	近年自然災害や特殊詐欺が多く発生している。そこで、あなたを守る、みんなを守るをテーマに、これまでの知識をより充実させていくための基礎を学ぶ					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	自助・共助の意識の再確認ができた。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	守るをテーマに、参加者の知識をどのように充実させていく事。			広報あきしま10月号、公民館だより10月号、市ホームページ		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	参加者数			12		
	定員			50		
事業の評価	実施結果	1回目が消防署員、2回目が警察署員で3・4回目が昭島市職員がそれぞれ講演した。立場の違うそれぞれの講師から話を聞くことで内容を深く学ぶことができ、参加者からは話がわかりやすかったという意見があった。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと					
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例:自主事業の開催、サロン、サークルなど)					
	②支援者の養成につながったこと(例:参加者が講師や講座の補助者になった など)					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署				
	地域公民館事業/時局講演会 「人工知能が変える未来の生活」		部	生涯学習			
			課	市民会館・公民館			
係			事業				
事業内容	近年人工知能を搭載した人型ロボットが企業などの受付窓口に置かれている。世界の技術は着実に進歩していて、気付かないうちに生活は変わっている。そこで、人工知能とは何か、人工知能は世界をどう変えるかについて学び、具体的な題材として保育支援のための人工知能を紹介いただき、その経済的プラスの面とマイナスの面も学ぶことをこの講演会の目的とした。						
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。						
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫			
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題			
	経済的プラスの面とマイナスの面の意識づけ。			広報あきしま2月15日号、公民館だより2月1日号、市ホームページ、ポスター、チラシ。			
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
	参加者数				27		
	定員				50		
事業の評価	実施結果	とても抑揚感のある講師の話し方で、終始和やかに講義が進められた。時には受講者の大笑いも出るぐらいの時局講演会であった。目的の中にもある様に経済的なプラス面とマイナス面は雇用が無くなる種目があってもその反対に雇用が生まれる種目のある事の実例と保育支援のための人工知能では実際に現在研究中の物や開発・改良が重ねられ現在実用化されている事等、スライドの中に動画を取り入れた事では受講者から「とても分かりやすかった」とお声掛けいただき、とかく硬い内容になりがちな時局に安堵した。玉川大学事務局とも良好な関係を持つこともでき、良い時局講演会であった。					
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと						
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例:自主事業の開催、サロン、サークルなど)						
	②支援者の養成につながったこと(例:参加者が講師や講座の補助者になった など)						

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	地域公民館事業/趣味教養講座「部屋も心もスッキリ爽やか 幸せな春が来る整理・収納術」		部	生涯学習		
事業内容	この講座では、受講者が整理・収納のノウハウなどを学ぶことで、部屋を安全で住みやすい環境に保ち、毎日の生活を彩り豊かにすることをねらいとする。		課	市民会館・公民館		
			係	事業係		
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	部屋の片づけに苦労している方に対して、整理・収納のノウハウを学ぶ場を設けることにより、部屋の中をより快適にし、前向きに毎日を過ごすことができるようにする。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	市民への聞き取り、他市の講座実施状況、新聞などのマスメディア等からの情報収集					
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	女性の参加が多いことを予想して保育を付けた。また、子育て中の女性が参加しやすい午前中の時間に講座を設定した。			広報、公式ホームページ、チラシ		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		28	16	38		
定員		28	16	40		
事業の評価	実施結果	本講座においては、募集の段階から多くの申し込みがあったことから、整理・収納に対する市民の関心の高さを感じた。講座当日は参加者がグループに分かれてディスカッションや意見交換などを活発に行い、参加者同士の交流も進んだため、大変充実した内容になったと思う。一方で、内容的には、整理収納に関する技術的な話よりも、整理収納に対する心構えや向き合い方などの話が中心であったため、参加者によっては少しとまどいを感じる人がいたのではないかと思う。こちらは今後の企画立案面の課題とした。 なお、講座の内容から考えて、今回は保育付きの講座としたが、こちらも満員となり、多くの方に利用していただいた。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	運営面の課題としては、会場が市立会館で、保育付きの講座であったため、初回の集金作業もあわせて、複数の職員で対応する必要があった。今後は、今回の様な講座を実施する場合、複数の職員で対応するなどのバックアップ体制を考えておく必要があると感じた。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例：自主事業の開催、サロン、サークルなど)					
	②支援者の養成につながったこと(例：参加者が講師や講座の補助者になった など)					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名	担当部署				
	社会文化セミナー	部	生涯学習			
		課	市民会館・公民館			
係		事業係				
事業内容	現代社会における社会的、経済的、歴史的、文化的課題を取り上げ、これからの豊かな市民生活を考える機会として開設している。「スタイルアップ～体を伸ばして心もスッキリ～」と題し、パソコンやスマホの使いすぎによる悪くなりがちな姿勢や肩こり、眼精疲労などを、ストレッチやヨガを体験し、体の内と外からリフレッシュした。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	若者の公民館促進を図るため年齢制限を設けたが参加者が集まらず、制限を撤廃した。その結果、20代から60代と幅広い参加があった。また、保育を付け加えたことにより数名の増加もあった。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	参加者へのアンケート			全3回で開催し、各回の内容は違っていたので、一つに特化し、極めたほうが自主グループ化に繋がったのではないかと思われる。また、座学の講座の中で息抜きとしてヨガ等を織り込むのも一つの方法だと思う。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	若者の公民館利用の推進に取り組みたいという思いもあり、スマホというキーワードで趣味的な内容にした。			広報、公民館だより、公式ホームページ、チラシ趣味的な内容とし、リピーターではなく、新規の参加者があった。さらに若者の参加を増やすための企画が望まれる。		
参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
参加者数				24		
定員				30		
事業の評価	実施結果	当初、年齢制限を設けたが、なかなか応募がなかったので、年齢制限をなくした。結果として定員30名のところ応募29名で、5名のキャンセルが発生し、最終的には24名の参加者となった。年齢層も20代から60代と幅広く、男女の構成は、男3名、女21名であった。また、募集段階の途中から保育を受け付けたことにより、2名の参加があった。第2回目にヨガ、第3回目にウォーキングを行ったが、子育てセミナーや市民大学などで体を動かす機会、ストレスを解消する機会として織り込んでもいいと思う。				
	改善点等結果を受けて、改善、工夫する(した)こと					
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例：自主事業の開催、サロン、サークルなど) ②支援者の養成につながったこと(例：参加者が講師や講座の補助者になった など)					
	新規の参加者があり公民館を知ってもらう機会になった。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	生涯学習サポーター養成講座		部	生涯学習		
			課	社会教育		
係			社会教育			
事業内容	生涯学習とは何か、なぜ、今生涯学習サポーターが求められているのかを学び、チームで市民目線の講座を企画運営する。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	生涯学習サポーターとして、市民と市、市民と市民をつなぐ役割を担う意識と実践力を身につける					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	生涯学習サポーターとの情報交換等			生涯学習サポーターの意見を尊重し、講座の内容を講座づくりとニュースレターづくりの2本立てにした。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	講座の組み立て方、進め方			広報、公式ホームページ、チラシ (課題) 定員20名に満たない		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		9	—	8	—	
定員		20	—	20	—	
事業の評価	実施結果	平成28年度は、参加者が徐々に減ってしまい、生涯学習サポーターとしての活動につながる人がほとんど残らなかった。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	講座の中で、市民向けの講座をつくるという内容で実施してきたが、講座の企画運営には、ある程度の経験も必要であるため、平成29年度2回目に予定している講座では、内容を一変することにした。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例:自主事業の開催、サロン、サークルなど) ②支援者の養成につながったこと(例:参加者が講師や講座の補助者になった など)					
	平成27年度受講者で「生涯学習サポーターの会 まなぶん」が発足して、その後のサポーター養成講座の企画案を一緒に練るなどの協働体制を取りつつある。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	子ども会世話人研修会		部	生涯学習		
			課	社会教育		
係			社会教育			
事業内容	子ども会世話人を対象に、子ども会の運営等に必要な知識や技能の習得を目的に開催している。平成24年度以降は、子ども会活動費補助金交付説明会と同時に開催。平成28年度「子ども会で使える簡単レクリエーション」					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	子ども会世話人が、子ども会活動を円滑に進める一助となること					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	特になし ※平成26年度は、平成25年度公立中学校PTA協議会から出された要望書に基づき、内容を決定「ファミリエール講座」			特になし		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	誰でも簡単にできるような内容にすること 情報の提供になるようにすること			広報、ホームページへの掲載、世話人への郵送での通知		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		30	28	32	31	定員は設定していない
定員		—	—	—	—	
事業の評価	実施結果	参加された方は、概ね満足していただけただよう。しかし、実施時間等、開催については厳しいご意見がある。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	特になし。 ※平日開催は、考えていない。 ※平成26年から、午後7時から開催だったところを6時30分にするなどしたり、平成27年度は保育を付ける、チラシを各会館等へ配付するなどしたが、保育利用者もなく、一般参加者は数名だった。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例：自主事業の開催、サロン、サークルなど) ②支援者の養成につながったこと(例：参加者が講師や講座の補助者になった など)					
	①②特になし 提供した情報を活用したという話はあった。(平成27年度 野村證券「まなぼう教室」/1団体)					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	社会教育・地域活動に携わる方々のための研修会		部	生涯学習		
			課	社会教育		
係			社会教育			
事業内容	主に社会教育関係団体の指導者等を対象に、団体活動に必要な基礎知識や技術を習得するために開催。グランドワーク三島の取り組みを例に、他者と関わり合うことによって生まれる連携や、これまでにない取り組み方法が見つかること					
事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。						
地域で活動している団体が知りあい、ネットワークを形成し、昭島でつながった仲間たちとしてムーブメントを起こすきっかけにすることを目的とする。						
事業の概要	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	団体登録更新の際に団体活動における課題や問題点を聞くなど。			他市等で実施されていることを参考にするなど		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	興味関心をひく内容になっているかどうか			広報、ホームページ、チラシ、社会教育関係団体等への案内郵送		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		25	29	19	25	
定員		80	50	50	40	
事業の評価	実施結果	平成28年度は、開催場所を公民館に移し、参加者の利便性も図ってみたが、なかなか集客には結びつかなかった。また、参加者が求めているものはもっと単純で取り組みやすい方法だったのではないかと。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	直接参加者自身にメリットが感じられる(即座に使える、変化する)内容を検討する。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例:自主事業の開催、サロン、サークルなど) ②支援者の養成につながったこと(例:参加者が講師や講座の補助者になった など)					
	その後の状況把握はしていないので、特になし					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	団体活動ステップアップ研修		部	生涯学習		
			課	社会教育		
			係	社会教育		
事業内容	パソコン技能の習得を通して、団体活動の拡大、役員の負担軽減を目的に、平成27年度より実施。 平成28年度はエクセルの基礎講座を実施（2日間、計6時間） （当初は、パワーポイントでのチラシづくりを計画したが、申込者がなかった）					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	エクセルの基礎を習得し、団体活動の名簿作りや会計に活用する。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	特になし ※中高年のためのパソコン講習会で、エクセルについては要望が高かった			特になし		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	特になし			広報、ホームページ、チラシ		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	参加者数		7	18		H29年度は12/6、7に実施予定
	定員		15	15		
事業の評価	実施結果	エクセルの基礎の修得ができたこと、受講者の満足度はかなり高かったが、団体活動に活かされたかどうかまでの追跡はできなかった。 受講者の年齢層は、20代（1名）からシニアまで幅広かった。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	エクセルは要望が高いので、平成29年度も再度実施することにした。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	直接的な効果は見られない。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	中高年のためのパソコン講習会		部	生涯学習		
			課	社会教育		
係			社会教育			
事業内容	中高年の生きがいがづくりとして、平成11年度から実施。 50歳以上の文字入力可能な市民を対象に、ワードの基礎プログラムを実施（年1回3日間）					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	中高年の生きがいがづくりと仲間づくり					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	特になし			特になし		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	特になし			広報とホームページに掲載するだけで、毎年ほぼ定員に達する。（広報の効果が高い）		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		11	15	15	15	
定員		15	15	15	15	
事業の評価	実施結果	毎年受講者の満足度は高い。 基本的には個人の学びの充実を求めている人が多いと感じる。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	特になし。 午前に開催しても、午後に開催しても、参加市者数に影響なし。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	平成24年度の受講者に、年度末にアンケートを実施。継続して学びたいとの声があったので、社会教育課も関わり、平成25年度に「昭島市中高年パソコン同好会」を発足。高齢化の悩みはあるが、毎年受講生の受け皿となっている。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	おはなしボランティア講座		部	生涯学習		
			課	市民図書館		
係			貸出			
事業内容	市内で読み聞かせ活動をされている方を対象に、その活動のキャリアアップを目的とした講座を企画及び運営する。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	市民の読み聞かせ及び絵本、ならびに図書館への関心を高める。また、おはなし会の質の向上につなげる。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	図書館のおはなしボランティアとの情報交換等			実践を交えての講座とした。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	講座資料			広報、公式ホームページ、ちらし、ポスター		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		28	30	35	未実施	
定員		40	40	40	未実施	
事業の評価	実施結果	おはなしボランティア者の参加が少なかった。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	活動されている市内の一般の方も対象としていきたい。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例:自主事業の開催、サロン、サークルなど) ②支援者の養成につながったこと(例:参加者が講師や講座の補助者になった など)					
	紙芝居への関心が高まった。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	はじめての読み聞かせ講座		部	生涯学習		
			課	市民図書館		
係			貸出			
事業内容	学校等で読み聞かせを行う方を対象に、読み聞かせの基礎についての講座を実施する。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	市民の読み聞かせ及び絵本、ならびに図書館への関心を高める。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	日常のフロアワークでの問い合わせについて、担当職員間で共有する。			前回までのアンケートを基に、資料内容を見直した、		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	講座の組み立て方			広報、公式ホームページ、ちらし、ポスター		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	参加者数	13	15	—	16	
	定員	10	10	—	10	
事業の評価	実施結果	平成29年度は、前年度実施しなかったためか、予想以上の申込があった。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	事後アンケートや質疑より、基本的な読み聞かせの仕方よりも、絵本選びについて知りたがっていると感じた。今年度2月のお話ボランティア養成講座は、絵本選びについての講座を企画している。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例：自主事業の開催、サロン、サークルなど) ②支援者の養成につながったこと(例：参加者が講師や講座の補助者になった など)					
	①絵本選びについての問い合わせが増えつつある。②学校等での読み聞かせに活かしている。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	親子ふれあいスポーツデー		部	生涯学習部		
			課	スポーツ振興課		
係			スポーツ振興係			
事業内容	市内の小学校を対象に年3回、土曜日の午前中に校庭及び体育館を利用して「親子ふれあいスポーツデー」を開催。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	親子がいっしょにスポーツ・レクリエーションを楽しむことを通じてふれあいを深める機会を提供する。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	参加者からの意見聴取			実施種目を見直すこと。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	親子がいっしょに楽しむことのできるスポーツの場を提供すること。			実施する小学校とその近隣校及び学童クラブに対しチラシを配布。		
参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
参加者数		266	283	256	108	平成29年度は3校中2校実施（1校11月予定）
定員						
事業の評価	実施結果	平成27年度をピークに参加者数が減少。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	実施種目の見直し。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	①親子の親睦が図れたことと、小学生になじみのないスポーツ（グラウンドゴルフ・インドアペタンク）の普及を図ることができたこと。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	消費生活講座		部	市民部		
			課	生活コミュニティ		
係			暮らしの安全			
事業内容	消費者教育及び消費者被害防止に係る啓発を目的として、知識の修得の機会を設けるため、社会情勢や市民のニーズに合わせた内容の消費生活講座を実施している。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	市民が自ら学び、考え、行動する賢い消費者となること。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	各講座の最後にアンケートを行い、興味のある事柄や参加したい・実施してほしい講座の記入をしてもらう。			アンケートの内容を精査し、開催する講座の企画内容に取り入れている。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	市民が参加したいと思う内容で、消費者教育などの啓発につながる講座であること。			広報、公式ホームページ、チラシ 課題は、定員に満たない場合があること。		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		199	190	130		実施する回数や定員が年度ごとに異なる
定員		274	264	154		
事業の評価	実施結果	アンケートから、満足・概ね満足と回答した参加者がおよそ9割いることから、一定の成果は得られているものとする。しかし、事業の成果として、どれだけ市民に消費者教育などの啓発につながっているのかは、効果が計り兼ねる。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	定員が埋まらない講座が多々あることから、実施する講座の内容や広報方法等について、精査している。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例：自主事業の開催、サロン、サークルなど) ②支援者の養成につながったこと(例：参加者が講師や講座の補助者になった など)					
	①、②のような効果を得ることは出来なかったが、参加者からアンケートでは、「今後の生活に役立てたい」、「講座に参加しなければ体験できない経験ができた」などの前向きな感想が多く、実施するだけの価値があるものとする。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	昭島市リーダーズクラブ		部	子ども家庭		
			課	子ども育成		
係			青少年			
事業内容	中学生・高校生・高校生以上（社会人）のメンバーが地域活動（青少年とともにあゆむ地区委員会など）に協力することにより、地域との関わりやリーダーとしての経験、資質の向上を目指し、活動しています。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	人と人との交流を通し、相互の親睦を図り、自分自身の向上をめざし、地域のリーダーになることを目的とする。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	小学生を対象にレクリエーション（ゲーム）や野外活動等の指導補助。			24歳未満のリーダーが地域との交流を図ることが出来て、地域活動に大きく貢献した。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	自分達で企画、計画を実行。			広報、公式ホームページ、チラシ（課題）周知方法を検討		
参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
参加者数		34	35	39	40	
定員		—	—	—	—	
事業の評価	実施結果	平成28年度はでは、在籍者が多少増加し、39名となった。中学生リーダー講習会の参加者からの入会は減少し、2名と少なかった。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	中学生リーダー講習会を終えた中学生を対象にリーダーズクラブの加入を促進しているが、講習会参加者が少ない為、地域のリーダーにも声をかけ、加入促進に力を入れている。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	青少年とともにあゆむ地区委員会の小学生リーダー講習会や青少年スポーツ大会に指導者として招かれ、地域の大人とともに活動し、青少年活動に貢献している。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名	担当部署				
	子どもと親の家庭教育講座	部	子ども家庭			
		課	子ども育成			
係		青少年				
事業内容	社会の急速な変化に伴う家庭や地域における教育機能の低下を考慮し、家庭・学校・地域と連携しにより一層の家庭教育の向上を図る。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	市単独での講座ではなく、学校公開授業に合わせて講座を開催することも多くなっている。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	地域や家庭の教育力向上。			お子さんをもつ保護者に対し、家庭教育に関する学習の機会を設ける。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	育児やしつけ方法をはじめ、対象者が欲する情報の提供や学習の気化器を提供し、自信をもって子育てが出来るようにする。			広報、公式ホームページ、チラシ（課題）周知方法を検討		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		140	111	149	80	
定員		150	104	210	80	
事業の評価	実施結果	団体が主催し、市が経費などを援助する形が多く、講座を中心に実施している。テーマによって参加者にバラつきはあるが、1講演で50名程度の参加がある。ここ数年講演会の回数も減少している。 ●過去の実績 25年度：8回 26年度：2回 27年度：3回 28年度：3回				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	平成26年度以降、講座開催数は激減しており、今後は講座募集の周知方法を考える必要がある。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	参加人数は、講座内容により変動するが、講座1回あたりに50人程度の参加がり、一定の成果を上げている。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	子育て仲間づくり「くじらっこ」		部	子ども家庭		
			課	子ども育成		
係			青少年			
事業内容	0歳児とその保護者（28年度までは0～1歳児）を対象とした育児講座。全3回の講座を通して参加者同士の交流を深める。 第1回「親と子の心を育てるあそび唄紹介」 第2回「ベビーマッサージ紹介」「簡単工作」 第3回「ストレッチ紹介」「育児相談会」					
事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。						
<ul style="list-style-type: none"> ・児童センターの育児相談事業に繋げる。 ・全3回の講座終了後ママサークルをつくり、保護者同士の情報交換の場を提供する。 ・サークル活動をきっかけに集会室を利用してもらい、稼働率を上げる。 						
事業の概要	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の利用者アンケート（全体について） ・講座終了後のアンケート（「くじらっこ」について） 			アンケートを基に、対象者を0歳児のみとした。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	保護者の学びやリフレッシュ、参加者同士の交流ができる講座の組み立て方、進め方。			公式ホームページ、館内提示、配布物。（課題） ・月毎で申込者数にバラつきがある。 ・ママサークルが継続しない。		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		82	427	248	199	
定員		120	600	480	240	
事業の評価	実施結果	28年度までは0歳から1歳児を対象に実施をしていた。しかし月齢差があることで、悩みや適した遊びが異なり、月齢の高い参加者は講座の邪魔をしてしまっているのではないかと不安感が残る場面があった。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	29年度より0歳児を対象にしたことで相談内容も絞られ、より交流がスムーズになった。又、1歳児対象の「こあらっこ」2歳児対象の「もぐらっこ」の実施へも展開した。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施後、1度はママともサークルとして自主的に集まっている。 ・顔見知りが増えることで他の行事へも気軽に参加でき、講座以外でも交流している様子が見受けられる。 					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	あきしま水辺の楽校		部	環境		
			課	環境		
係			水と緑			
事業内容	カヌー教室（カヌーやいかだで楽しく遊び、自然とふれあう） 昭島警察署の協力による、水難救助訓練の見学。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	1. 子どもも大人も多摩川の自然の中で遊び、学び、いやされる場とします。2. 自然への理解を深め、自然を保全する場とします。3. 川と人とのつながりを理解する場とします。4. 水辺の楽校での活動を通して、子どもたちの成長や地域のコミュニティの場とします。5. 昭島らしい多摩川の自然を、次の世代へ引継ぎます。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	水辺の楽校運営協議会の方々が行なっている			水辺の楽校運営協議会の方々が行なっている		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	水辺の楽校運営協議会の方々が行なっている			広報、ホームページ		
参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
参加者数		35	24	中止	28	
定員		30	30	30	30	
事業の評価	実施結果	毎年、多くの参加希望があり、カヌー・いかだは普段中々経験できるものではないので、大人も子どもも楽しめる人気の事業である。 昭島警察署による水難救助訓練も大変好評である。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	毎年、人気の事業であり継続して行なっていく				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	多摩川の自然にふれあうとともに、水難事故の危険性も学んでいる					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	森林教室		部	環境		
			課	環境		
事業内容		「地球温暖化防止」「水源のかん養」など、森林の持つ多様な機能の保全を図り、同時に、市民が自然に親しむことのできる場づくりを展開していく。				
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	植林、その後の管理を行うことにより、多摩地域の森林を荒廃から守り、水源域の保全に努める。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	前回の参加者から頂いたアンケートを参照			頂いたアンケートをまとめ、どの意見が次回に行なえるか検討する。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	毎年、7月と11月の開催だが、今年度は5月と10月に変更した。			広報、ホームページ、チラシ（課題）各回とも定員40名に満たない		
参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
参加者数		45	52	61	22（春のみ）	
定員		80	80	80	80	
事業の評価	実施結果	年2回開催しており、定員は各40名だが、中々定員に満たない状況であり、新規の参加者も少ない。 しかし、リピータの方々には大変好評で、毎回楽しみにしている方もいる。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	親子また、こどもだけ（5年生以上）の参加者を増やすため、今回は下見の時にバイトトラップをしかけ、昆虫等生き物を捕獲し、10/28の開催時に観察を行うこととしている。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	参加者がお互いコミュニケーションをとりあい、人と人の繋がりができている。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	夏休み親子多摩川源流体験		部	環境		
事業内容	夏休みを利用し、市民（親子）を対象に多摩川源流にある小菅川を進みながら普段なかなか見られない植物や生物などの自然を体験してもらいます。		課	環境		
			係	計画推進		
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	源流体験に参加した事で、普段の生活では体験できない自然の豊かさや厳しさを実際に感じてもらい、自然を大切にすることを養ってもらう。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	体験終了時にアンケートを行っている。			体験終了時に作成してもらうアンケートの結果を参考に、今後の源流体験の改善に役立てている。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	今まで源流体験に参加したことのない市民を、より多く参加してもらえよう考慮した。			広報・ホームページ・ちらしによる募集。 課題（定員20名以上の申し込みが来るので、出来たら定員数を増やしたい）		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		29	19	20	20	
定員		30	20	20	20	
事業の評価	実施結果	例年、定員20名以上の申し込みがあり、参加された皆様からは、また参加したい、とても気持ち良かった、自然を大切にしたいなどの感想をいただいている。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する（した）こと	定員から漏れた申込者やはじめて申し込まれた方達が参加できるよう工夫していきたい。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	①見知らぬ者同士が、源流体験をとおして仲良くなることできた。 ②特になし					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	環境学習講座		部	環境		
事業内容	市内在住・在勤者を対象に環境に関する様々なテーマの講座を開催することで、環境に対する興味をもってもらい、勉強し学んでもらう。		課	環境		
			係	計画推進		
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	各講座に参加をしてもらうことで、普段の生活や市民同士のコミュニケーション、また、街づくりなどに役立ててもらいたい。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	各講座終了後にアンケートを実施。			アンケート結果、他市で開催している学習講座、インターネット等の情報を収集し、市民が学んでみたい講座を開けるよう努力している。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	講座全体の時間の掛け方や興味をひく講座の開設			広報、ホームページ、ちらしの配付		
参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
参加者数		84	86	93	46	平成29年度は、現在進行中。
定員		80	100	120	80	
事業の評価	実施結果	平成27年度より生物多様性をテーマに講座を開催しているが、そのテーマ内容によって参加人数に開きがあった。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	多くの市民に参加をしていただくために、より興味をもっていただくテーマを考えながら講座を開催していく。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例：自主事業の開催、サロン、サークルなど) ②支援者の養成につながったこと(例：参加者が講師や講座の補助者になった など)					
	①見知らぬ市民同士が学習講座に参加し知り合うことで、講座以外の市で行うイベントや企画等に声を掛け合い参加してもらえるようになった。 ②一般市民として参加されていた人が、環境学習のスタッフとなり運営のお手伝いをしてもらえるようになった。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	親子米作り農業体験教室		部	市民部		
事業内容	昭島市米生産者組合から推薦を受けた指導農家が市内小学生親子を対象として、農業体験教室を行う。 種まきから収穫まで、一連の作業を行う他、収穫した新米を全員に配布する。		課	産業活性課		
			係	都市農業担当		
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	土に触れる喜び、作物を育む喜びの他、田んぼの生物の多様性を観察し、普段では出来ない市民と農業者との触れ合いを通じて都市農業を理解する一助とする。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	10年以上継続されている事業でもあり、最後にお米配布と同時に行うアンケートによりニーズを把握する。 また随時、参加者からのニーズを聞き取るほか、米生産者組合等も含め農業者からもニーズを収集する。			田んぼが教室の為、駐車場やトイレ等を確保するため、周辺のお寺等に趣旨をご理解いただき協力してもらっている。		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	年間の開催予定の組み立てや、当日の進め方について指導農家と細かく打合せを行う。 (小学生対象の為、市内学校行事の開催日の確認や、当日を含めた天候の確認)			広報、公式ホームページ		
	参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
参加者数		20組 (45人)	23組 (58人)	27組 (59人)	29組 (65人)	
定員		20組	20組	20組	20組	
事業の評価	実施結果	毎年実施しており参加者の評価も高い				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	改善点はないが、田んぼの面積もあるため参加者の大幅な増がある場合、参加を断る場合も想定される(現在は、先着順)				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例:自主事業の開催、サロン、サークルなど) ②支援者の養成につながったこと(例:参加者が講師や講座の補助者になった など)					
	昭島市米生産者組合が市内小中学校にて実施している学校給食米提供事業と併せ、子ども達や父兄に対しても地産地消や都市農業への理解を図れた。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名	担当部署				
	傾聴ボランティア講座	部	保健福祉部			
		課	介護福祉課			
		係	高齢サービス係			
事業内容	高齢者をはじめとする地域住民は、話し相手を求めている。傾聴ボランティアは、5日間で相手を理解しようとする気持ちと傾聴の技能、人と人との円滑なコミュニケーションを学ぶ講座である。					
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	ボランティアとして活動するために相手を理解しようとする気持ち、傾聴の技能を学び、実践力を身につける。 この講座を終了した者に昭島市で活動している「昭島傾聴ボランティア さざなみ」への加入を推進することで、傾聴ボランティア活動の活性化を図る。また、加入しなかった場合でも身につけた技能を、地域又は家庭で生かしてもらおう。					
	市民ニーズの収集方法		市民ニーズに対する工夫			
	過去の参加者から情報提供 ボランティア団体の会員からの要望		講座は、講義と体験学習を行っている。またロールプレイやグループワークを行い、実践力を身につける。			
	企画する際意識したこと		情報提供の方法、成果と課題			
	講師と事前に打ち合わせを行い、講座を円滑に進めていく。		情報提供の方法 広報（市、社会福祉協議会）、公式ホームページ、チラシ 課題 定員30名に満たない			
参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
参加者数		20	29	18		
定員		30	30	30	30	
事業の評価	実施結果	定員30名に満たないが、ほとんどの参加者は1度も休むことなく全5回出席されていた。講座終了後、参加者の中で数名であるが、「昭島傾聴ボランティア さざなみ」へ加入に繋げることができた。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	30名の定員には満たしていないため、今後、開催方法・開催時間を見直していく必要がある。市の広報、社協の広報、各会館等にチラシの配布を行っていたが、今後、老人クラブや介護事業所への周知を行っていく。				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと（例：自主事業の開催、サロン、サークルなど） ②支援者の養成につながったこと（例：参加者が講師や講座の補助者になった など）					
	参加者が「昭島傾聴ボランティア さざなみ」へ加入することで、施設や個人宅に赴き、お話を聴き取る活動を行うことで、地域へ貢献する人が増えつつある。					

実施事業に関する調査シート1

基本データ	事業名		担当部署			
	認知症サポーター養成講座		部	保健福祉部		
事業内容	「認知症サポーター」は厚生労働省が「認知症を知り地域を作るキャンペーン」の一環である「認知症サポーター100万人キャラバン」として、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指して養成されています。本市でも約5,000人のサポーターが誕生している。		課	介護福祉課		
			係	高齢サービス係		
事業の概要	事業の達成目標 ※特に、参加者や地域への効果として期待していることがあれば、併せて記入してください。					
	「認知症サポーター」には、特別な活動を要求されるわけではありませんが、日常生活の中で認知症の人と出会った時に、その人の尊厳を損なうことなく、適切な対応をすることで、認知症の人と認知症の人を介護する家族を見守り、応援者となるとが期待される。					
	市民ニーズの収集方法			市民ニーズに対する工夫		
	社会福祉協議会にて偶数月に実施している。			認知症の方に対する対応の仕方についてDVD等の映像にて伝えている		
	企画する際意識したこと			情報提供の方法、成果と課題		
	認知症という症状を理解していただくように、分かりやすく伝えるために、教材も独自のものを使用した			社会福祉協議会だより、市広報、ホームページの掲載		
参加人数推移		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	特記事項
参加者数		798	817	869	646	H29.10.1現在
定員		無	無	無	無	
事業の評価	実施結果	認知症サポーター養成講座の参加者が年々増加しており、結果として、サポーターとして地域での認知症の周知及び理解をする方が増加したことになり、認知症の方が住み続けられる環境ができる。				
	改善点等 結果を受けて、改善、工夫する(した)こと	サポーター養成講座の周知に努める。 認知症サポーター養成講座は、多くの方に認知症の理解を深めて、認知症の方の支援につながるため、自治会や学校等に呼びかけを行なっている				
波及効果	①事業がきっかけとなって地域に芽生えたこと(例:自主事業の開催、サロン、サークルなど) ②支援者の養成につながったこと(例:参加者が講師や講座の補助者になった など)					
	サポーター養成講座終了後にステップアップの講座を開催している。また、市主催の徘徊模擬訓練の参加にも協力を頂いている。					

実施事業に関する調査シート2 公民館

平成28年度実施事業の内、もっとも成果のあった事業と、成果の見られなかった事業について

具体的な事業名とその内容等を教えてください

成果あり	事業名:家庭教育セミナー
	参加者数/定員 29/30
	事業内容 子どもの叱り方、伝え方で親子や地域で笑顔になるコミュニケーションのコツなどを学ぶ (5日間 計10時間)
	判断理由 <input type="checkbox"/> 今後の継続あり <input type="checkbox"/> 今後の継続なし <input type="checkbox"/> 未定
要検討	定員を超える応募があり、お断りをした経緯があり、また、講座の回数が少ないと言った意見があり関心の高さが伺える。 講座終了後、自主グループ化をし現在活動している。
	事業名:社会文化セミナー「スタイルアップ」
	参加者数/定員 24/30
	事業内容 社会的課題として「スマホ病」を取り上げ、パソコンやスマホの使いすぎによる悪くなりがちな姿勢や肩こり、眼精疲労などを、ストレッチやヨガを体験し、体の内と外からリフレッシュする。
判断理由 <input type="checkbox"/> 今後の継続あり <input checked="" type="checkbox"/> 今後の継続なし <input type="checkbox"/> 未定	
要検討	今、生活必需品となっているスマホや携帯による現代病を取り上げ、若い世代を公民館に関心をもってもらう願いを込めて企画したが、人数はなかなか集まらなかった。当初、年齢制限を設けたことも参加が増えない一因だと思う。再度募集にあたって、保育をつけたところ数名の若い参加者があった。 また、内容についても改善のための食事など座学を織り込んだほうが良かったのではないかと思います。 ストレッチ・ヨガ・歩き方と言った趣味的な内容にもなってしまったが、一つに特化して行た方が、自主グループ化もあったのではないかと思います。

実施事業に関する調査シート2 社会教育

平成28年度実施事業の内、もっとも成果のあった事業と、成果の見られなかった事業について

具体的な事業名とその内容等を教えてください

成果あり	事業名: 団体活動ステップアップ研修
	参加者数/定員 18/15
	事業内容 団体活動等での負担軽減を目的として、エクセルの基礎を学ぶ(2日間 計6時間)
	判断理由 <input checked="" type="checkbox"/> 今後の継続あり <input type="checkbox"/> 今後の継続なし <input type="checkbox"/> 未定
要検討	事業名: 子ども会世話人研修会
	参加者数/定員 32/定員なし 21団体参加/全体数36団体(補助金交付団体)
	事業内容 子ども会で使える簡単レクリエーションとして、手軽に楽しめるゲームの紹介などを実施。
	判断理由 <input type="checkbox"/> 今後の継続あり <input type="checkbox"/> 今後の継続なし <input checked="" type="checkbox"/> 未定
	子ども会は、年々減少しており、それに伴い、世話人研修会への参加も減少傾向にある。そのため、子ども会活動費補助金交付説明会と同時開催にしても、なかなか参加者が増えず、むしろ負担であるという声を聞く。 子ども会が主体的な活動をしているというより、地域の自治会やウイズ・ユースの補助的活動を担っている側面も大きく、今後の事業継続については、慎重に検討したい。

実施事業に関する調査シート2 市民図書館

平成28年度実施事業の内、もっとも成果のあった事業と、成果の見られなかった事業について

具体的な事業名とその内容等を教えてください

成果あり	事業名:0歳からのわらべうたライブ
	参加者数/定員130名/100名
	事業内容 わらべうたうたい坂野知恵氏による、わらべうたライブ
	判断理由 <input checked="" type="checkbox"/> 今後の継続あり <input type="checkbox"/> 今後の継続なし <input type="checkbox"/> 未定
	年々わらべうたへの関心が高まっており、受付開始日のうちに定員に達した。坂野氏が昭島の保育園等でも活動しているため知名度が高いのも人気の一因と考えられる。事後アンケートでは次年度への要望も多数ある。
要検討	事業名:おはなしボランティア講座
	参加者数/定員34/40
	事業内容 市内で読み聞かせ活動をされている方を対象に、その活動のキャリアアップを目的とした講座を企画及び運営する。
	判断理由 <input type="checkbox"/> 今後の継続あり <input type="checkbox"/> 今後の継続なし <input checked="" type="checkbox"/> 未定
	参加者内訳を見ると、本来対象としたいおはなしボランティアの参加人数は減っている。事業自体の目的や対象の再検討の必要がある。

実施事業に関する調査シート2 スポーツ振興課

平成28年度実施事業の内、もっとも成果のあった事業と、成果の見られなかった事業について 具体的な事業名とその内容等を教えてください	
成果あり	事業名:新春駅伝競走大会開催事業
	参加者数/定員 1,965人/定員なし
	事業内容 駅伝を通じて市民の体力増進と青少年の健全育成、市民の交流を図る。
	判断理由 <input checked="" type="checkbox"/> 今後の継続あり <input type="checkbox"/> 今後の継続なし <input type="checkbox"/> 未定
	平成27年度より計測方法に電子チップを導入することにより大会運営の効率化・参加者への情報提供の迅速化を図ることができたため、毎年参加者が増加傾向にある。
要検討	事業名:市民プール開設
	参加者数/定員 21,944人/定員なし
	事業内容 7月中旬から8月末までの期間市民プールを開放し、市民の健康づくりや遊びの場として提供する。
	判断理由 <input checked="" type="checkbox"/> 今後の継続あり <input type="checkbox"/> 今後の継続なし <input type="checkbox"/> 未定
	平成28年度より、東京都より借用していた駐車場がなくなり利便性が低下したことから、利用者数が減少した。施設も老朽化していることから、利用者が安全に使用して頂くために多額な経費もかかり、現在の厳しい財政状況下において、施設の将来的運営についての検討は引き続き必要である。

実施事業に関する調査シート2 生活コミュニティ課

平成28年度実施事業の内、もっとも成果のあった事業と、成果の見られなかった事業について

具体的な事業名とその内容等を教えてください

成果あり	事業名:シニア向けスマートフォン教室
	参加者数/定員 39/40
	事業内容 スマートフォンの操作を行ったことのない高齢の初心者を対象に、携帯電話事業者から講師を招いて実際にスマートフォンの操作を行い、その利便性や使用上の注意点、災害時の活用方法等について学ぶ。(2時間)
	判断理由 <input checked="" type="checkbox"/> 今後の継続あり <input type="checkbox"/> 今後の継続なし <input type="checkbox"/> 未定
要検討	事業名:老後に備える生活設計と資産管理
	参加者数/定員 22/50
	事業内容 少子高齢化に伴い、医療や介護、公的年金などの社会保険制度の見直しが進められ、国の制度を全面的に頼ることが難しくなりつつある中で、定年退職後の世代も例外でないことから、定年退職をした・控えた世代に向け、老後のライフプランを学ぶ。
	判断理由 <input type="checkbox"/> 今後の継続あり <input checked="" type="checkbox"/> 今後の継続なし <input type="checkbox"/> 未定
	満足度は80パーセントと高い水準であったが、参加希望者が定員の半数以下と少なく、市民のニーズに即していないものと思われた。

実施事業に関する調査シート2 環境課

平成28年度実施事業の内、もっとも成果のあった事業と、成果の見られなかった事業について 具体的な事業名とその内容等を教えてください	
成果あり	事業名:夏休み親子多摩川源流体験
	参加者数/定員 20/20
	事業内容 夏休みを利用し、市民(親子)を対象に多摩川源流にある小菅村を進みながら、普段なかなか見られない植物や生物などの自然を体験してもらいます。
	判断理由 <input checked="" type="checkbox"/> 今後の継続あり <input type="checkbox"/> 今後の継続なし <input type="checkbox"/> 未定 子ども達の夏休みを行う環境課の事業として、とても人気があり、毎年、定員を満たしている。参加者同士の交流もでき、自然を大切さを学ぶうえで成果があった。
要検討	事業名:森林教室
	参加者数/定員 第1回目 35/40 第2回目 22/40
	事業内容 「地球温暖化」「水源のかん養」など、森林の持つ多様な機能の保全を図り、同時に、市民が自然に親しむことのできる場づくりを展開していく。
	判断理由 <input checked="" type="checkbox"/> 今後の継続あり <input type="checkbox"/> 今後の継続なし <input type="checkbox"/> 未定 奥多摩の山奥で行う事業であるため、天候や熊の出没、土砂崩れなどにより事業地へ行けない場合があり、事業の中止や事業計画の変更を余儀なくされることがある。リピーターが多いため、一定の参加者はいるが、次世代に担う子ども達の参加が少ないので、そこに検討の余地と思われる。